



校長の目 ～西小日々通信～

令和4年9月28日（水）



保健室の棚には、雑巾がたくさん収納されています。これらは、ふじみ野いきいきクラブ連合会東部支部様から昨日いただいたものです。いきいきクラブ様からは、毎年手縫いの雑巾をいただいています。一枚一枚、丁寧に縫われており、心のコモった雑巾です。子供たちが清掃活動で使っている雑巾は、ご家庭で準備していただいておりますが、学校ではそれ以外に雑巾が必要な場面はたくさんあります。給食の配膳台を拭いたり、理科室のシンクにも常備しておかねばなりません。大雨等で校内が濡れがちな時にも活躍します。ありがたく使わせていただきます。いきいきクラブの皆様、大変ありがとうございました。



6年生は、国語で宮沢賢治の「やまなし」を学習していました。画像は、物語に出てくる「金雲母」が何かを担当が説明しているところです。

「やまなし」は、私も小学生のころ学びましたので、教材としての歴史はとても古いです。独特の世界観を醸し出すこの物語は、子供たちの想像力を大いに掻き立てます。また、「かぶかぶわらったよ」とか「クラムボン」など、面白い表現や架空の固有名詞が出てくるため、とても難解な物語でもあります。清廉な川底に棲むカニの兄弟の目を通した世界は、時に残酷であり、時に美しいものとして映ります。五月と十二月の二つ場面を対比しながら物語を読み進めますが、宮沢賢治が何を伝えたかったのかを正確に理解することは難しいです。何か一つの答えを見つけるのではなく、この不思議な世界観に没入し味わいながら、一人一人が自分なりの解釈を模索し楽しむことが大事です。



4年生は、体育館で跳び箱の授業でした。跳び箱の授業は、道具の準備・片付けや練習のルールをしっかり身に着けることで、運動時間を確保して安全に練習をすることができます。マットや跳び箱は、二人以上で運んでいます。一人だと危険ですし、床面を傷つけることにもなります。また、練習場面では、安全に試技を行えるよう、友達が合図してから助走を始めます。みんなしっかりルールを守って学習することができていました。

